

氏名	小泉詠子
学位の種類	博士（音楽）
学位記番号	博音第206号
学位授与年月日	平成24年3月26日
学位論文等題目	〈論文〉ロドリーゴの歌曲集《アントニオ・マチャードとともに》の演奏解釈をめぐって 〈演奏〉ロドリーゴ《アントニオ・マチャードとともに》《2つの時代の歌》《子どもに歌うための2つの歌》《花嫁の歌》《ロマンシージョ》《子守唄》
総合審査委員	
（主査）	東京芸術大学 教授（音楽学部） 永井和子
（副査）	〃 〃（ 〃 ） 寺谷千枝子
	〃 〃（ 〃 ） 川上洋司
	〃 〃（ 〃 ） 畑瞬一郎
	琉球大学 准教授（教育学部） 服部洋一

（論文内容の要旨）

本論文の目的は、ホアキン・ロドリーゴの歌曲集《アントニオ・マチャードとともに *Con Antonio Machado*》（1971）を対象とし、楽曲分析と演奏解釈を行うことにより、一般的に広く抱かれてきた一面的な「スペイン音楽像」に一石を投じ、その理解と魅力を提示することである。スペインの音楽というと、一般的に想起されるのは、フラメンコに代表されるスペイン南部のアンダルシア地方の音楽、またはそのアンダルシアの影響を強く受けたカスティーリャ地方の音楽ではないだろうか。刹那的な華やかさ、情熱、愛怨、影といったイメージを持つ人が多い。しかし、「スペイン音楽」とは、そのような性質の音楽ばかりではない。本論文では、ロドリーゴの歌曲を分析し、その演奏解釈を行うことにより、「スペイン音楽」の多面性の1つを提示する。

本論文は、3章から構成されている。第1章では、ロドリーゴの音楽について述べる。第1節では、音楽的な側面からロドリーゴの生涯を俯瞰する。彼は膨大な数の作品を残したが、苦難の時代にこそ代表作を生み出している。第2節では、ロドリーゴの作曲活動の背景を探り、必要不可欠であった妻ビクトリアの献身ぶりと、盲目の彼がどのように作曲し、記譜していたのかということについて述べる。第3節では、ロドリーゴ自身が残した記述やインタビューの記録により、彼がどのような音楽を好み、また目指していたのか、その音楽観を明らかにする。無調音楽に代表されるような前衛的な作風に対して、保守的な一面を見せている。第2章では、スペイン歌曲を歌う上で必要と思われる歌唱法の知識を、先行研究に基づいてまとめる。第1節では、ロドリーゴが活躍した20世紀のスペイン音楽について概説し、スペインの民族主義の開花と流行の時代から、前衛的な音楽を模索する若い作曲家のグループに至るまでの流れを見る。第2節では、スペイン歌曲の演奏法に関する先行研究を紹介する。第3節では、スペイン歌曲の演奏に必要な舞台語としての発音法について述べ、スペイン語を母国語としない歌手が陥りやすい問題にも言及する。第4節では、スペイン歌曲に共通する慣習的な歌唱法について、服部洋一の論文をもとにまとめる。第3章では、ロドリーゴの歌曲作品の特質について考察する。第1節では、彼の歌曲作品を概観し、第2節では、全10曲からなる歌曲集《アントニオ・マチャードとともに》全曲の楽曲分析と演奏解釈を行う。その結果を踏まえ、第3節ではロドリーゴの歌曲の特質とその演奏方法に

ついて、総合的に考察する。

(総合審査結果の要旨)

論文は、筆者がそれまで抱いていた「スペイン音楽」の固定観念を打ち砕いたとされるJ.ロドリゴの歌曲集《アントニオ・マチャードとともに》を研究対象とし、一面的な「スペイン音楽像」に一石を投じ、その理解と魅力を提示している。第1章でロドリゴの生涯と音楽を論述。第2章でスペイン歌曲の歌唱法を解く。特にこの章に於ける歌唱の為の発音法に関しては、演奏者の立場からの詳細な記述が加わり、説得力がある。今後の声楽家にとっての力強い手引き書ともなる内容の充実である。第3章では、楽曲分析と演奏解釈を通してロドリゴの音楽観を色濃く引き出している。この分野の邦語文献・資料や研究書の少ない状況を鑑みても、この論文は重要な価値を有するであろう。

学位演奏会では、前半に初期から晩年に亘る10曲を選び、後半で研究対象とした歌曲集《アントニオ・マチャードとともに》を配置。

「簡素で美しい音楽は虚飾と誇張を嫌う」—これはロドリゴの言葉であるが、申請者小泉の演奏は見事にこの言葉通りの自然体で艶やかな全く無駄のない、それでいて深い味わいを届けていた。この作品に申請者は芸術的価値を見出し、魅かれたのだが、むしろ、格調高いこの申請者の端正な歌唱により、この作品の芸術的価値を更に高めた様に感じる。今後スペイン歌曲の素晴らしさを広めて行って欲しいと希っている。以上審査員5名による審査の結果、演奏・論文の総合として「(削除)」の評価であり、合格と認める。